

岡崎むかし館

すず はこ 涼しさを運ぶモノ

暑い夏をどう過ごすか？ どうしたら涼しくなるか？ 昔からわたしたちは、さまざまな工夫を重ねてきました。中でも団扇^{うちわ}や扇子^{せんす}であおいだり、風鈴^{ふうりん}で涼しげな音を聴くなど、自然の風を利用することがたいへん有効で、近代になると、その風を自動的に起こす扇風機^{せんふうき}が登場しました。

現在、ヒートアイランド現象や地球温暖化の問題など、理屈ではわかっているものの、わたしたちの体そのものは、エネルギーを大量に消費するエアコンで過ごす環境に、すっかり慣れてしまっているようです。しかし社会生活に必要なエネルギーには明らかな限度^{げんど}があるという現実、国民全員が直接向き合うことになった2011年の夏、目に見える節電対策として、また涼しさを得る方法を見直す視点から、扇風機が大きな注目を浴びています。

みなさんのおうちでも、きっと大活躍している扇風機、その歴史をたどってみましょう。

- 1893 明治 26 年 アメリカのウェスティングハウス社がはじめての扇風機を発売
- 1894 明治 27 年 現在の東芝の前身が、国産第 1 号となる扇風機を発売
直流エンジン電動機の頭部に、当時登場して間もない白熱電球がつき、スイッチで羽根が回ると同時に白熱球がともった。
- 1916 大正 5 年 低価格の芝浦扇風機が製造され、好評を得る。
- 1918 大正 7 年 国産扇風機の量産開始
卓上型、4枚羽根で鑄鉄製、現在の製品と比べたいへん重かった。
- 1935 昭和 10 年 現在の羽根の原形が登場
幅広にすることで風の脈動をなくし、運転音を柔らかくした。
- 1940 昭和 15 年 「贅沢品製造販売制限規則」実施により、軍用を除き扇風機の製造が中止される。
- 1947 昭和 22 年 一般向け生産再開。黒色に代わって若葉色などカラー化が始まる。
- 1952 昭和 27 年 羽根に初めてプラスチックが採用される。
- 1955 昭和 30 年 コンデンサモーターが開発される。
モーターが小さくなることで重量が減り、動作が安定して振動も減った。
- 1968 昭和 43 年 電子スイッチにより、プレートに触れるだけで速度切替可能に。
- 1972 昭和 47 年 細目のガードが登場し安全性が向上
- 1980 昭和 55 年 マイコン搭載機発売。涼風のきめ細かな調節が可能に。
高さ調節可能なりビング用扇風機発売
- 1986 昭和 61 年 モーターの小型・薄型化により後部に出っ張りのない機種登場
- 1998 平成 10 年 温度と光の 2 種類のセンサー搭載機発売
室温に合わせた自動風量調節・消灯を感知してタイマーを自動で設定



交流電気扇（三菱電機製） 岡崎市立中央図書館蔵

参考：一般社団法人日本電機工業会ホームページ、(株)東芝ホームページ